

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174600205		
法人名	社会福祉法人 幕別真幸協会		
事業所名	グループホーム くつろぎの家		
所在地	帯広市西1条南28丁目4番地1		
自己評価作成日	平成22年6月25日	評価結果市町村受理日	平成22年8月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「私達は、一人ひとりに寄り添い、地域と共に安心して笑顔で暮らせる「家」に致します。」の理念のもと、入居者様の持つ能力を活かして、家事などベテラン主婦を発揮できるよう支援しています。

演芸の日として、舞踊や、腹話術など外出が難しい入居者様が地域の方と共に楽しめるよう取り組んでいます。

母体法人の託児所や、地域の保育所の子供たちとの触れあう機会もついています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0174600205&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人北海道社会福祉協議会		
所在地	〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成22年7月8日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、古くから町内会がある住宅街にあり、近くには川があり自然も多い。母体法人は、ショートステイ、デイサービスセンター、訪問入浴サービス、介護サービスセンター、グループホームの5つのサービスを運営しており、それぞれのサービスが全ての面で幅広く交流し、展開している。法人の理念はもとより、事業所独自の理念を職員みんなで考え、作りあげている。地域との付き合いも運営推進会議、災害時の協力、演芸ボランティアの来訪、また、地域交流行事には利用者や全職員が参加するなど信頼関係を深めている。また、利用者の筋力維持のための体操、誤嚥防止の口腔体操や歌を毎日30分取り入れ、健康維持につなげている。職員のケアの質を高める研修には段階的に参加し、結果は復命書で報告し、全職員が共有している。運営推進会議に他のグループホームの職員も参加するなど、互いに交流を深めている。夜間災害時の利用者、家族、職員の不安軽減を図り、宿直を2名体制にしたり、毎月避難訓練を重ね、気付いたことを話し合い災害に備えている。外出も本人本位に考え、お墓参り、自宅の周りの草むしりなどを取り入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホーム独自の理念を職員間で話し合いわかりやすい言葉で作りスタッフルームに掲示しスタッフ会議で唱和し理念の実践に取り組んでいる。	事業所独自の理念を全職員で話し合い作りあげ、常に念頭におき、日々のケアサービスに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し日帰り温泉旅行・パークゴルフ・焼肉親睦会・保育所の運動会・卒園のお別れ会に参加したり、町内会が来訪され「食事会」交流を深めている。	演芸の日に地域住民が来訪し、食事会に参加するなど利用者と一緒に楽しんでいる。また、町内会長の自宅が事業所の隣で災害時には協力を得られるなど、地域との親睦を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外出が困難な入居者の為に企画した演芸の日に演芸後、食事会を行ない認知症の理解を得よう交流する機会をもっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとの運営推進会議を開催し、利用者・家族・町内会役員・地域包括支援センター職員・他GH職員の方に参加して頂き、意見を頂きながらサービスの向上に活かしている。	年6回運営推進会議を行っており、本人、家族、町内会、市行政職員、他グループホーム職員、事業所職員が参加している。会議では、事業、決算報告、自己、外部評価、地域交流、災害訓練、感染予防、事業計画などを議題とし、活発な意見が出され運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは必要に応じて連絡をとっている。様々な指導を頂く他、入居者の作品展を行なう為の協力も頂いている。	行政の担当者に夜間のケア加算、認知症専門ケア加算、スプリンクラーの設置の件について相談し、利用者の習字の作品展を帯広図書館や市のロビーで発表出来るよう取り図ってもらうなど、情報を得て協力関係を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関の施錠をせず、一人で外出される利用者の見守りを行ない出掛けたい理由を探るようにしている。身体拘束の勉強会に参加している。	職員は身体拘束の弊害を内外部研修で深く認識しており、徘徊があるときはそっと寄り添い、見守り支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	リスクマネジメント委員会で情報を共有し、各部署に伝達し虐待防止に努めている。虐待防止の勉強会に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人をたてている方は現在いないが、入居者の持っている力を活かし日々の生活が生き生き暮らしていけるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結には十分な説明を行ない、理解・納得して頂けるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に苦情窓口についての情報を掲示している。御家族来訪時には必ず意見を頂けるよう現在の入居者の状況を報告している。誕生会・御家族交流会時に意見を頂けるよう働きかけている。	家族来訪時常に話しやすい雰囲気づくりに心がけ、3ヶ月ごとに第三者である町内会の参加を得て、苦情処理委員会を設置している。重要事項説明書で市介護保険課、道にも苦情相談窓口があることを知らせている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等で職員の意見を聞いている。会議以外でも日々コミュニケーションを図り意見を活かせるようにしている。	毎月のスタッフ会議では全職員の意見を共有し、一人ひとり面談する機会を設けている。内外研修にも積極的に参加し、結果は復命書で報告し会議で共有している。また、他事業所との人事交流もあり、ケアの振り返りに役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの面接の機会を設け意見を聞き入れている。人事考課を導入し向上心、目標を持って働けるよう促している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修に参加し得たものをスタッフ会議で研修報告しケアに活かしている。また、資格取得の為、母体法人でケアマネージャー勉強会を行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会へ加入し、職員研修会・講演会・GH相互研修に参加し他GHの方々との意見交換・交流を図りサービスの向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前に実調を行ないご本人からも充分話を聞く機会を作っている。入居後も安心して生活して頂くためその時々ニーズを把握して支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族から面会時に充分話を聞く機会を作っている。常に話やすい雰囲気作りに努め信頼関係を深めていけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人と御家族の意向をお聞きし必要としているサービス利用を各機関で連携できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に利用者本位を念頭に置き職員が一方向的に決定しないよう心掛けている。利用者の特技や家事等、日々の生活の中で活かして頂き共に行ない教わっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族交流会や母体法人の夏祭り等、御家族に参加して頂き、絆を大切にしている。定期受診は一緒に通院へ行く御家族の方もおり、少しの変化も連絡し連携を密にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ふるさと訪問する機会を作り、自宅の周りを歩いたり、お墓参り、御家族の働いているスーパー等で買い物したりする機会を作っている。	担当者が一緒にお墓参りに行ったり、自宅に戻り周りの草むしりや付近のスーパーで買い物したり、婦人部のコミュニティセンターに立ち寄るなどの支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士で会話したり、意思疎通が困難な入居者には職員が間に入る事で入居者間の関係が深まるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され自宅に戻られた御家族から近況報告の葉書を頂いたり、死亡終了の利用者の御家族から一周忌後ホームに来訪され思い出を職員と共に話をした。気軽に訪問して頂いている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活歴や環境を把握し日々の生活の中で一人ひとりの思いや希望をくみとり、職員間で情報を共有し検討している。	生活歴を踏まえ、日々の関わりから好きな食べ物や得意分野である縫い物、漬物、調理など職員が把握して共有し、一人ひとりの個性を活かすよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴やサービス計画書等の資料をいつでも閲覧できる場所に保管している。御本人・御家族の会話から、これまでの暮らし方の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の記録を毎日細かく記入しながら、変化にも早く気づくよう努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月一回モニタリングを実施し評価している。御本人・御家族の意向を確認し6ヶ月に一回見直しを行ない同意を得ている。	センター方式を取り入れ、詳細なアセスメントに基づき担当者が原案を作成し、ケアマネジャーサービス担当者会議で関係者の意見、希望を集約し、毎月モニタリングを実施している。6ヶ月ごとに見直ししているが、変化があればその都度見直し、家族の承諾を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとり入居者ごとに日常の生活の記録を行ない、気づきや変化を確認する事で職員間で情報を共有し介護計画に活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人・御家族の状況に応じて柔軟に支援していくよう努めている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物や町内行事・市の生涯学習に参加して、本人の持っている能力を活かせる場を作り支援している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人・御家族が希望するかかりつけ医に受診している。職員が受診に同行した場合は結果を記録し、御家族が受診対応する場合はホームでの様子を口頭か書面でお知らせしている。	利用者全員が本人や家族の希望するかかりつけ医に受診している。軽い風邪などの場合は、事業所の近くの病院で受診し、結果は家族に知らせている。急を要する場合の一人ひとりの対応については、スタッフルームの前に貼ってあり全職員が方針を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体法人の看護師に週一回巡回時、様子を伝えて状態把握している。毎日の心身の状況の報告も連絡し、相談・指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は入所中の様子を細かく報告したり入院期間の情報を頂いて退院後のケアに繋げている。病院との連携できている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者・御家族から重度化した場合の意向確認をしている。ホームでは医療との協力体制を図り、方針を共有・確認し対応している。	重度化、終末期については早い段階に事業所で出来ること出来ないことを見極め、本人や家族と話し合いを重ねており、状況が変化する都度、家族、医療関係者と連携体制を密にし、情報や方針を共有し取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の緊急対応マニュアルを作成し、それに基づいて対応出来るように確認を行っている。オンコール体制も整備している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間防災計画書に基づき毎月実施している。地域防災訓練にも参加。全職員が避難出来るよう訓練を続けている。夜間は介護職員の他に1名宿直を配置し2名体制にしている。地域の住民の方とも協力体制をとっている。	家族や職員の不安軽減のため宿直を2人体制にしている。地域防災訓練に地域と一緒に参加し、事業所の訓練を毎月行い、災害時に備えている。ガスレンジも電気に変えるなど、直火を使用しないよう考慮している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室の出入りは本人の了解のもと行ったり、一人ひとりの人格を尊重しプライバシーを損ねないよう対応している。	言葉遣い、声のかけ方、トイレ誘導は利用者を人生の先輩として尊厳を傷つけないよう常に配慮している。また、利用者に相談事を聞いてもらったりしている。個人情報にも配慮し、記録はスタッフルームで管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴時の着替えも自ら選んでもらうなど思いや希望に沿ったケアを努めている。自己決定の難しい方へも本人の思いをくみとったケアを意識して対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、その日の体調等に合わせて支援している。入居者の習慣や思いを優先し日々のケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容に依頼し、希望にそって毛染めを行っている。外出時や誕生会にはお化粧をしておしゃれを楽しんでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事を準備し食事する事で見守りができ利用者の嗜好の確認ができる。食べる楽しみがもてるように季節感を取り入れた食事の提供を行なっている。	栄養士が作成する献立で、季節感のある食材を使っている。食事の準備を無理強いせず、職員と一緒に調理、盛り付け、後片付けをしている。口腔体操を取り入れ誤嚥防止に努めている。また、食事、水分量は記録を残し、支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス・食事量・水分量は記録を通して確保できるよう支援している。水分量の少ない入居者には一日を通して確保するよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け介助を行なっている。眠前は入れ歯を洗浄剤につけて清潔保持している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとり排泄チェックを行ない排泄のパターンを把握している。入居者の様子を観察しながら、トイレへの声掛け誘導を行なっている。	排泄の自立に向け、毎日30分体操を取り入れ、筋力低下防止につなげている。排泄回数も記録し、コーヒー、ゼリー、清涼飲料水などの摂取を工夫し、排泄につながるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を取り入れた食事の提供を行なっている。運動や散歩も支援しながら、個々に応じて処方されている下剤の調整も行ない排便を促している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴され清潔保持に努めている。本人希望も取り入れ入浴の順番も決めている。入浴の時間が職員との会話の時間にもなっている。	週3回以上、入浴の機会を設けている。入浴を拒否する場合は、無理強いせずゆっくり会話をしながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は洗濯たたみ等の日課や散歩をして活動的に過ごされている。昼寝は短時間とるなど支援し夜間の安眠につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を必ず服用して頂くよう職員が管理している。薬での変化には医師と相談し、薬を最小限にして薬に頼らないケアに心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力に応じて役割をもって生活できるよう支援している。楽しみある生活になるよう外食・行事等計画し外に出る事で気分転換できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良ければ毎日のように町内会を散歩している。入居者全員が外出出来るよう母体施設のバスを借り、桜見学・七夕祭り見学・紅葉ドライブ、地域の方の協力もあり日帰り温泉旅行・野外焼肉親睦会にも参加している。	自宅の周りを歩き草むしり、近くのスーパーで買い物したり、婦人部コミュニティセンターに立ち寄るなどの支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を自己管理している方もおり、職員が付き添い自ら支払い出来るように支援し買い物する楽しみを持てるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の誕生会には御家族に自分の思いを手紙に書けるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	書道の作品や行事の写真・観葉植物など置き、入居者がゆったりとすぐに座れるソファや食卓椅子が置かれている。職員の動きも環境の一部とし静かに入居者の動きに合わせている。室温・湿度にも気をつけている。	玄関先には色とりどりの花をプランター一杯に植えており、野菜の収穫も楽しみにしている。居間は明るく、ゆったりした雰囲気ソファを置き、食堂テーブルスペースで思い思いに自由にくつろぎ、写真、書道等の展示物を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	混乱のないよう一人ひとり座る場所が固定している。ひとりになりたい時は居室で過ごす時間を大切にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前の布団・ソファ・椅子・時計等ほとんど馴染みの物を持ち込み安心して生活できるようにしている。また、御家族の写真・アルバム等も置きいつも見て頂くよう配慮している。	居室には各々馴染みの身の回りの品を持ち込み、思い思いに飾り、落ち着いた雰囲気になるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に御本人の名前を貼ったり入所前使用していた御本人ののれんをさげ迷わず、御自分の部屋がわかるようにしている。		